

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B	配分額	560,000 円
研究課題	大学教員養成課程における小学校社会科学習の教材とテキスト開発		

研究代表者

氏名	所属	職名
椿 真智子	人文科学講座地理学分野	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
大石 学	人文科学講座歴史学分野	教授
田中 比呂志	同上	教授
上野 和彦	人文科学講座地理学分野	特任教授
澤田 康德	同上	講師
栗原 裕次	人文科学講座哲学分野	准教授
赤間 佑介	人文科学講座法学・政治学分野	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本学の初等教育教員養成課程における必修・小教科目「社会科研究」は、社会選修・専攻以外の学生が将来小学校教員として社会科の授業を行う際に、習得しておくべき社会科の基礎・基本と技能の習得・養成を目的としている。

現在は、小学校社会科を構成する地理・歴史・公民の3領域を可能な限り網羅すべく、5分野の教員が2名・1組で各クラスを担当している。新カリ移行後は、赤間先生のご尽力のもと、シラバスの共通化やクラス規模の適正化が実現した。しかし授業の中味については依然として各教員の裁量に任されており、本科目の課題や到達点、学習内容、評価等に対する共通認識を明確にすることは容易ではない。また現時点で、当該科目にふさわしいテキストは学内外ともに存在せず、授業改善は各教員の創意工夫や試行錯誤によるところが大きい。

こうした現状をふまえ、小学校教員養成課程において、社会科に対する興味・関心を高め、基礎的能力を養成するための学習プログラム開発を目標とするプロジェクトを2010年度より開始した。2年目にはいった2011年度の活動メンバーは、小学校社会科を構成する地理：上野・椿・澤田、歴史：大石・田中、公民：赤間・栗原の7名である。昨年度の成果をふまえ、まず各専門の立場から小学校社会科学習の基礎・基本ならびに課題を検討し、当該科目で学ぶべき内容・技能について議論した。今期の主な活動内容は以下の通りである。

1. 学習指導要領における学習課題と各専門分野における基礎概念・技能との連関について各自で検討。昨年度の地理的分野の枠組みに加えて歴史・公民分野について整理した。
2. 第1回研究会を2011年10月26日(水)に開催：今期の作業目標・計画・予算執行の検討。
3. 教員養成に力をいれている他大学の当該科目に関する実態調査：玉川大(椿)・早稲田大(大石)・鹿児島大(大石)。

他大学の当該科目の内容はいずれも担当教員の裁量にまかされており、内容・形式の共通化やテキスト開発は行われていない。現職教員あるいは教員経験者による社会科教育的内容も多くみられた。

4. 第2回研究会を2012年2月9日に開催：歴史・公民的分野における小学校社会科の基礎概念・視点・内容・課題の検討、他大学の調査報告、大学教職課程「小学校社会」(教科に関する科目)テキスト作成にむけたテキスト構成・目次案(地理的分野)の検討。

学習指導要領および教科書内容に関する各専門からの課題や問題点の指摘は、本科目の中味を検討・実践する上で非常に有益であり、異なる専門教員が議論することの意義をあらためて認識できた。また、小学校社会の内容には複数分野に関わるものもあることから、分野間の連携・調整の必要性についても課題検討を行った。

5. 今期の研究・作業内容をまとめた下記報告書を発行。
 1. はじめに：椿
 2. 大学教職課程で学ぶ「小学校社会」の基礎と方法論・課題
 - (1)地理的分野(上野・澤田・椿)(2)歴史的分野(大石・田中)(3)公民的分野(赤間・栗原)
 3. 2011年度「社会科研究」の授業実践(4名)
 4. 他大学の实態について(椿)
 5. 他専攻学生を対象とする「社会科研究」地理的分野のテキスト構成案(上野・澤田・椿)

研究成果発表方法

2012年3月に報告書「2011年度重点研究 大学教員養成課程における小学校社会科学習の教材とテキスト開発」を発行。

7月23日に開催される日本地理教育学会大会（於：千葉敬愛大）にて発表する予定。

2年間の成果をふまえ、次年度はテキスト作成にむけ作業を継続する予定。